

# 古典文藝論叢

## 第六号

『とはずがたり』考……………	渡辺知美(1)
—二条から見た東二条院—	
『繪本徳齋軍談』考……………	豊岡瑞穂(19)
—病対薬の合戦譚・本と薬の流通—	
注釈	
拾遺愚草、下、部類歌注釈……………	小田剛(35)
—春・2049〜2059—	
資料紹介	
お伽草子『四十二のものあらしひ』伝本紹介その二…	周防朋子(53)
—国会図書館蔵『源氏四十二のものあらしひの事』について—	
彙報・編集後記……………	(59)

題字 高 畠 望 先生

【彙報】

第二十九回例会

【日時】平成二十五年（2013）二月二十四日（日）

【場所】南餐一〇五

【発表】

① 藤松弘武氏 「近世後期の猫の文芸について」

② 中本茜氏

「キリシタン版『太平記抜書』の神仏表現」

③ 加美甲多氏

「諸本関係から見た『沙石集』説話の方法と意義

― 中世期から近世期への転換の中で ―

第三十回例会

【日時】平成二十五年（2013）四月十四日（日）

【場所】南餐一〇五

【発表】

① 濱村修氏

「大伴旅人の情こころ

― 亡妻歌、餞別歌、旅人挽歌を読んで ―

② 溝端悠朗氏

「定家の「野外柳」の歌をめぐる

― 定家の作意と後鳥羽院の解釈 ―

第三十一回例会

【日時】平成二十五年（2013）七月七日（日）

【場所】南餐一〇五

【発表】

① 檜垣駿氏

「新古今当代歌人の星の和歌について」

② 渡辺知美氏

『『とはずがたり』考 二条から見た東二条院』

③ 玉越雄介氏

『『百人一首』九十九番歌考

― 後鳥羽院と藤原良経との関係から ―

第三十二回例会

【日時】平成二十五年（2013）九月二十二日（日）

【場所】南餐一〇五

【発表】

① 太田丈也氏

「無住と長母寺

―入山の経緯と『沙石集』執筆の意図―」

② 川口陽子氏

『源氏物語』須磨流離における光源氏の「罪」

③ 周防朋子氏

「御伽草子『四十二のものあらそひ』と

『伊勢物語』古注釈」

第三十三回例会

【日時】平成二十五年（2013）十二月一日（日）

【場所】南費一〇五

【発表】

① 中川はづき氏

「仏教説話における動物考

―『日本霊異記』を中心に―」

② 吉田唯氏

「佛光寺の神婉受容の背景について

―佛光寺関係の伝記と後醍醐天皇という存在―」

第三十四回例会

【日時】平成二十六年（2014）二月二十三日（日）

【場所】南費一〇五

【発表】

① 溝端悠朗氏

「定家の「大内の花見」の歌について

―「述懐の心」をめぐって―」

② 山本廣子氏

「大田垣蓮月の平井家（醍醐寺の旧坊官家）

宛書簡について」

## 編集後記

『古典文藝論叢』第六号をお届けします。今回も、諸先生方および若手の研究者の論文を収載することができ、大変うれしく思っております。

今年度は、文藝談話会に参加されている吉田唯先生が博士号を授与され、また小田剛先生が『式子内親王全歌新釈』を、内田美由紀先生が『伊勢物語考―成立と歴史的背景』を新典社から刊行なさいました。心よりお祝い申し上げます。

新しい参加者も増えており、今後益々充実し、安定した研究の場となるよう、第七号刊行に向けて尽力したいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回第六号を刊行するにあたり、龍谷大学親和会より助成を頂きました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

(中本記)

平成二十六年三月十日 印刷  
平成二十六年三月二十日 発行

### 古典文藝論叢 第六号

編集者 大取一馬

編集委員 中本茜 佐野仁美 豊岡瑞穂

亀井久美子 溝端悠朗

発行者 文藝談話会

〒六〇〇/八二六八

京都市下京区七条大宮大工町一二五―一

龍谷大学文学部大取研究室

印刷所 西村印刷株式会社

〒六〇二―八二四六

京都市上京区上長者町通黒門東入

電話〇七五―四四一―四一〇八